

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	身近で気軽に行ける相談窓口体制の整備（保育所等）						掲載ページ		
							178		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		-	千円	-	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	保育所や幼稚園、知的障害児通園施設、入所施設、特別支援学校等で、市民が気軽に相談できる窓口を設けられないか検討します。その体制を作るため、障害児療育の専門機関による技術的支援を行うなど、保育所等の職員の専門性の向上を図ります。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	市民の相談窓口設定の検討を行い、保育所等の職員の専門性の向上を図ります。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】		
	相談対応施設数	157 施設 (100%)	158 施設	158 施設	100.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	全保育所（158施設）で相談に対応していきます。 （最終目標と最終年度）						順調 やや遅れ	順調
（最終目標と最終年度）			遅れ					

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 療育の専門機関から支援事業や保育課や社会福祉研修所主催で相談体制づくりの研修を実施しました。保育所は身近な施設で相談がしやすく、発達相談の早期発見につながります。また乳児から就学前までの様々な子どもがいるので、実際の援助の様子を見ることができ、保護者にとって大きな支援になります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 保育所の機能を有効利用することで予算をかけずに実施しており、経済性・効率性は高いと考えます。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
今後とも職員の専門性を高め、相談窓口を充実させ障害のある子どもの早期発見や支援につなげたいと思います。職員の専門性を高めるための研修会を実施します。また、育児に関する相談に対応していますが、障害に関する相談は少ないため、育児相談の一環としてPR活動を実施します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	身近で気軽に行ける相談窓口体制の整備（保育所等）						掲載ページ
							178
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		千円	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	子ども総合センターは、子どもに関するあらゆる相談、指導、心理・障害の判定、一時保護等を行うとともに、児童虐待、非行、不登校など立ち直り支援が必要な子どもに対応するため、関係機関と連携し子どもや保護者への支援するなど、法に基づく児童福祉の専門的行政機関として運営します。			活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動計画	相談者などへの適切な対応を行います。				
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】
	児童相談受付件数	4,683 件		4,628 件	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 大変順調
	児童に関するあらゆる問題について、相談に応じる機関としての活動を最も端的に示す指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）				
	（最終目標と最終年度）			やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	児童相談受付件数は、前年度並みに推移しており、相談者に適切な対応が行えています。児童に関するあらゆる相談に応じるとともに、児童及び保護者等を支援する活動を推進しており、有効性は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	最小の経費で最大の効果を上げるべく、計画的かつ効率的な予算執行に努めて、運営しています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
<p>子ども総合センター（児童相談所）は、児童福祉法で政令指定都市に設置が義務付けられた機関です。今後も児童福祉の専門的行政機関として、本事業を様々な関係機関と連携しながら、より効果、効率的に推進し、子どもや保護者など相談者に適切な支援等が行えるよう着実な取組みを進めていきます。</p>

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	身近で気軽に行ける相談窓口体制の整備（保育所等）						掲載ページ		
							178		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		2,769	千円	3,099	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	保育所や幼稚園、知的通園施設、入所施設、特別支援学校等で市民が気軽に相談できるよう体制を整えるため、障害児療育専門機関による職員への技術的支援を行います。			活動実績 活動実績は下記のとおりです。
活動計画	今年度も社会福祉法人に委託し、保育所等へ障害児療育の専門職員を派遣します。				
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】
	施設一般指導事業実施件数	177 件		151 件	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)				大変順調
(最終目標と最終年度)				順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	順調に事業を実施しました。総合療育センター等の専門スタッフによる保育所等職員の育成は、より多くの相談者の福祉向上、問題解決を効果的に実施することができます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	指導を実施しているのは障害福祉に関して知識・経験を十分に有する職員であり、他の職員では同じ成果を得ることができません。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
本事業は保育所等の職員の資質向上に有効であるため、今後とも継続的に実施します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	発達障害者支援センターの充実						掲載ページ		
							178		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		9,579	千円	9,336	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	発達障害者支援センター西部分所を設置し、本市西部地区の発達障害のある人に対する支援の充実を図るとともに相談支援体制の強化を図ります。				活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	発達障害者支援センター西部分所において、主に本市西部地区の発達障害児・者及びその保護者を対象に、相談支援等を行います。							
活動指標		前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】		
	発達障害者支援センター西部分所の相談支援件数	434 件		491 件	大変順調		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	「相談支援件数」の増加が、利用者の悩みや不安の解消につながり、ひいては、相談支援体制の強化の判断基準となるため、成果指標として掲げました。（平成23年度はPR等を継続することにより相談件数の1割増を目指します） (最終目標と最終年度)					順調	順調	
				やや遅れ				
	(最終目標と最終年度)			遅れ				

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	本市西部地区の発達障害者にとって、中核的な役割を担っています。本事業は、本市西部地区の発達障害者の相談支援機関として中核を担っており、相談支援体制の強化を図る上で、重要な役割を果たしています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は、発達障害に関して専門的知識を持った事業者に委託しており、経済性及び効率性に配慮した事業展開を図っています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
本市西部地区の発達障害者に対する支援体制の整備を着実に推進するために、今後も継続して実施します。今後とも、積極的な広報活動により利用者の増加に努めるとともに、支援の充実を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	ショートステイ事業						掲載ページ		
							178		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		197,556	千円	235,300	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	介護者の病気や冠婚葬祭などにより、一時的に介護等支援が受けられなくなった在宅の障害児（者）を、短期間、施設で預かり（宿泊型・日帰り型）必要な介護等を行います。今後、その充実を図り、重度の障害のある子どもの受け入れを含め、支援を強化します。			活動実績 活動実績は下記のとおりです。
活動計画	短期入所事業については、法定給付のため、その内容については国の制度改革等の動向を見ながら実施を継続します。				
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】
	短期入所の月延利用人数	64 人/月	58 人/月	74 人/月	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	短期入所は、保護者の身体的・精神的負担の軽減を図るためのレスパイト（一時的休息）としても必要であり、利用状況を把握していくことが重要と考えています。 （最終目標と最終年度）平成26年度 318人/月			127.6 %	
	日中一時支援事業（日帰りショート）の利用者数	172 人/月	173 人/月	176 人/月	順調 やや遅れ 遅れ
当該事業における利用者数の増加は、障害者（児）の日中における活動の場の確保及び介護負担の軽減につながります。 （最終目標と最終年度）平成26年度 182人/月	101.7 %			順調	

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	利用実績は当初予定を上回る見込みとなっておりますが、重度の障害者（児）の受入を行う事業所が少ない状況は続いています。 （利用実績） （短期入所）H23.3～H24.1平均で1,510人/月 （日帰りショート）H23.3～H24.1平均で 175人/月 保護者の身体的、精神的負担の軽減を図るために不可欠な支援であると考えており、着実に利用者数等が伸びていることから、保護者のレスパイトや就労支援に対する有効性は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	短期入所については、障害者自立支援法に基づく法定給付であり、自治体が独自でその内容を決定できるものではありません。日帰りショートについても同法に基づく地域生活支援事業であり、適切な支援が行なえるよう、障害児（者）に対しての支援のノウハウを有する事業者へ委託をしています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
保護者のレスパイトや就労支援の充実に必要な支援であり、今後も事業を継続します。また、重度障害児（者）のニーズに対応していくため、既存事業所の受け入れ枠の拡大や新規事業者の参入への助言などを行ってまいります。 短期入所事業については、法定給付のため、その内容については国の制度改革等の動向を見ながら実施を継続します。 また、重度障害児が利用できる短期入所事業所、日帰りショート事業所の充実を図るため、既存事業所の受け入れ枠の拡大や、新規指定の参入への助言などを引き続き行ってまいります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	特別支援学校のセンター的機能の整備						掲載ページ		
							178		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		0	千円	6,600	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	特別な支援が必要な幼児児童生徒の様々な課題解決のため、拠点となる特別支援学校に、（仮称）特別支援相談室を置き、他の特別支援学校や関係機関と連携しながら、地域の小・中学校等への助言援助を行います。			活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動計画	特別支援相談室の設置について、特別支援学校の総合的な整備の検討と並行して行っていきます。（市が直接実施）				
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】
	保育所・幼稚園・小中学校等への助言援助	173 校 園	201 校 園	189 校 園	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 大変順調
	特別支援学校が教育相談を行ったり、関係機関と連携したりして、保育所・幼稚園、小・中学校等への助言援助を行います。 （最終目標と最終年度）25年度 201校園			94.0 %	
	特別支援相談室の設置	0 校	校	0 校	順調 やや遅れ
（仮称）特別支援相談室を設置することで、地域の小・中学校等の相談支援体制を充実します （最終目標と最終年度）25年度 3校	% 遅れ				

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 市内の園、小・中学校の約9割が特別支援学校のセンター的機能を活用しています。しかし、全国的に特別支援学校の児童生徒数が増加傾向にあり、教室数の不足が続いているため特別支援学校内の特別支援相談室の設置計画が滞っている状況にあります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 現在文部科学省の推進事業の中で行っていますが、今後も幼、小・中等では必要度が高いことが予測されるため、費用対効果は高いといえます。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
今後は、特別な支援を必要とする就学前幼児の小中学校へのスムーズな移行ができるよう支援の内容や方法を見直し、小中学校が主体的に移行の支援が行えるようにする予定です。また、特別支援相談室の設置については、その中核となる特別支援教育相談センターの機能を強化することで今後の対応を行っていく予定です。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	子ども総合センターの運営						掲載ページ		
							178		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		129,132	千円	94,534	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	子どもに関するあらゆる相談、指導、心理・障害の判定、一時保護等を行うとともに、児童虐待、非行、不登校など立ち直り支援が必要な子どもに対応するため、関係機関と連携し、子どもや保護者への支援するなど、法に基づく児童福祉の専門的行政機関として運営します。					
活動計画	子どもや保護者など相談者に適切な支援等を行うなど、児童福祉の専門的行政機関としての着実な取組みを進めていきます。						活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】		
	児童相談受付件数	4,683 件	-	4,628 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	児童に関するあらゆる問題について、相談に応じる機関としての活動を最も端的に示す指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)					順調	
	(最終目標と最終年度)				やや遅れ	順調	
				遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	児童相談受付件数は、前年度並みに推移しており、相談者に適切な対応が行えています。児童に関するあらゆる相談に応じるとともに、児童及び保護者等を支援する活動を推進しており、有効性は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	最小の経費で最大の効果を挙げるべく、計画的かつ効率的な予算執行に努めて、運営しています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
<p>子ども総合センター(児童相談所)は、児童福祉法で政令指定都市に設置が義務付けられた機関です。本事業は施策に対する有効性も高く、児童に関するあらゆる相談への適切な対応を図っていくうえにおいて、今後も着実な取組みを進めていくことが必要だと考えています。</p> <p>今後も児童福祉の専門的行政機関として、本事業を様々な関係機関と連携しながら、より効果的、効率的に推進し、子どもや保護者など相談者に適切な支援等が行えるよう着実な取組みを進めていきます。</p>

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	北九州市障害者しごとサポートセンターの充実						掲載ページ
							179
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		22,426 千円	32,278 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	障害のある子どもたちが地域でいきいきと自立した生活を送れるよう、「社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会」に運営委託している障害者しごとサポートセンターを拠点として、学校等の教育機関やハローワーク等の関係機関との連携を強化するとともに、きめ細やかな就労支援を行い、就職を促進します。				活動実績	活動実績は下記のとおりです。
活動計画	障害者しごとサポートセンターを拠点に、本人の能力や特性に応じたきめ細やかな対応を行うとともに、新たな職場開拓、企業の意識啓発に努めます。また、就労以降支援事業所等が実施する就労支援に対する効果的な支援に取り組みます。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】	
	障害者しごとサポートセンターの新規登録者数（20歳以下）		20 人		13 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	「登録者数」の増加が、利用者のニーズに応える就労相談及び支援の拠点としての評価基準となることから、成果指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）						
	障害者しごとサポートセンター利用者の就職件数（20歳以下）		12 件		27 人	順調 やや遅れ 遅れ	順調
「就職件数」の増加が、就労支援の評価基準となることから、成果指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）							

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	障害者しごとサポートセンターにおいて、指導や助言、職業訓練や職場実習の調整・あっせん、能力や適正に応じた職業紹介の調整、就労企業の開拓などにより就職を促進するとともに、職場定着支援を強化するため、職場適応援助者（ジョブコーチ）、就業支援カウンセラーの配置、雇用アドバイザーの設置などにより、厳しい雇用状況下において、就職件数もH19年度の開設当初の目標を上回る就職件数を達成しています。 障害のある子どもの就職支援を行うとともに、企業において障害者雇用の理解が深まるように推進する当事業は、「社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会」に委託して実施し、障害者の経済的自立の促進を通じて、施策の実現に対し、十分効果が得られており、極めて有効性が高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	センターの運営は、同様の機関である「北九州障害者就業・生活支援センター」を国・県から受託している「社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会」に委託しており、2つのセンターが合同で活動することで高い効率性を得ています。また、関係機関（労働局・ハローワーク）と密に連携を図り、効果的・経済的な取組みに努めています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること	
<p>障害者しごとサポートセンターにおいては、事業目標を上回るペースで就職実績があがっていますが、厳しい経済情勢の中、関係機関との連携のもと、さらなる取り組みの充実を図る必要があります。また、増加しつつある精神障害や発達障害のある就職困難者への対応の強化について、検討していくことが必要です。</p> <p>本人の能力や特性に応じたきめ細やかな対応を行うとともに、新たな職場開拓、企業の意識啓発に努めます。また、増加しつつある精神障害や発達障害のある子どもたちへの支援の強化を図ります。</p>	

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	北九州市障害者自立支援協議会の運営						掲載ページ
							179
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		7,011 千円	6,520 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	保健・医療・福祉・教育・雇用の関係機関によるネットワークを構築し、機関相互の連携を図ることで障害児（者）の地域生活を支援します。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。
活動計画	地域の関係機関によるネットワークの構築や、解決が困難な事例への対応のあり方等に関して、関係機関が相互に連携し、協議を進めるための場を構築します。				
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】
	定例支援会議の開催回数	36 回		36 回	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 大変順調
	関係団体の連携・ネットワークの強化を図る判断基準として、「定例支援会議の開催回数」を活動指標に掲げました。				
					順調 やや遅れ
	（最終目標と最終年度）			遅れ	順調

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	定例支援会議開催により、順調な関係機関の連携強化がなされています。市内の障害福祉関係機関の情報交換、意見・提案の場として有効に機能し、市内の障害福祉の発展に効果があります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	協議会参加団体間の連携、ネットワークの形成のために効率的です。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
障害当事者や時代のニーズにあった形で協議会全体のフレームを見直し、より障害児（者）を取り巻く問題の解決につながる協議ができるようにします。 協議会全体のフレーム見直しに伴う、各部会の新たな活動を開始します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	高齢者・障害者相談コーナーの運営(旧:保健福祉相談コーナーの運営)						掲載ページ		
							179		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		79	千円	263	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	高齢者・障害者相談コーナーは、障害者や高齢者の状況に応じた総合的なサービス提供が行われるように、健康づくりから介護サービスまであらゆる相談を受け付ける窓口です。平成23年度より、保健福祉相談コーナーの名称が「高齢者・障害者相談コーナー」と変更され、業務内容も更生医療や重度障害者医療、手当関係等が追加されることとなり、ますます総合的なサービス提供が必要となりました。これまでも相談体制の確立を図ってきましたが、今後、高齢者・障害者相談係長会議を定期的で開催することや各区の高齢者・障害者相談業務に従事する職				活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	高齢者・障害者相談係長会議を2ヶ月に1回、年6回開催します。各区の保健福祉相談業務に従事する職員の研修派遣を1区1人、計7人派遣し、職員の資質の向上に努めます。							
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】		
	高齢者・障害者相談コーナー相談件数		112,470 件		130,682 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	相談件数は、障害者又はその家族が各区高齢者・障害者相談コーナーに求めるニーズを把握する指標となるものです。今後とも、係長会議の定期的開催や職員の研修派遣等を通じ職員の資質の向上に努め、市民サービスの推進を図ります。 (最終目標と最終年度)							
						順調	順調	
(最終目標と最終年度)					やや遅れ 遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	計画通りに進んでいます。2ヶ月に一度、定期的には高齢者・障害者相談係長会議を開催することで、各区の懸案事項を解決したり、区役所間の意見の統一を図ることができるため、相談支援体制の強化につながります。また、職員を研修に派遣することにより、職員の資質の向上が図られます。施策の目標に対する有効性は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	会議の開催回数を減らした場合、区役所間の意見統一などに時間を要するため、相談支援体制の機能が低下する恐れがあります。また、職員の派遣研修については、障害関係は制度改正も多いため、研修回数を減らすことは、職員の資質の低下を招くことになります。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
高齢者・障害者相談係長会議の定期的な開催により、区役所間の意見の統一を図ることができ、また、職員を研修に派遣することにより、職員の資質の向上が図れるため、本事業は施策に対する有効性も高く、今後も目的達成の為にこのまま事業の取り組みを進めることが適当だと考えます。今後も、高齢者・障害者相談係長会議を定期的で開催し、又、各区の相談業務に従事する職員を研修に派遣する等、更なるレベルアップを図り、障害者や高齢者に対し総合的な相談支援を行うことのできるよう体制作り強化を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	ホームヘルプサービス事業						掲載ページ		
							179		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		1,278,613	千円	1,347,604	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	障害者自立支援法に基づく「障害福祉サービス」の一つで、ホームヘルパーの派遣を希望する在宅の障害児（者）に対し、支給時間数（利用できる時間数）を決定し、これに基づき、障害児（者）は事業者から身体介護や家事援助等のサービス提供を受けます。そのサービスに要した費用を市が負担します。				活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	法的給付のため、法制度の仕組み等により給付等事業を行います。なお、国において制度改革等の動きがあることから、国の動向を見ながら事業を継続します。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】	
	訪問系サービスの月利用時間数		30,185 時間	50,116 時間	35,337 時間	70.5 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	訪問系サービス（居宅介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護）の月延利用時間数の実績です。居宅介護事業等は、障害者が地域等で安定的な生活を営むために必要なサービスであることから、利用状況を把握していくことが重要と考えています。 （最終目標と最終年度）平成26年度 41,051時間/月							

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	全体的に利用者数、利用者時間数ともに増加しており、平成23年10月から新しく同行援護が始まったことでさらに増加しています。障害児（者）への必要なサービス提供は概ね順調に提供されています。今後もサービス提供体制の充実や良質なサービス提供の実現のため、事業者への助言や指導等に努めるとともに、利用者へ適切なサービス利用の決定を行っていきます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	法定給付であり、自治体が独自でその内容を決定できるものではありません。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
<p>障害児（者）が住み慣れた自宅等地域で生活をしていく上で不可欠な支援であるため、今後も継続して事業を行います。法定給付のため、その内容については国の制度改革等の動向を見ながら実施を継続します。また、今後も利用者が必要とするサービスが適切に受けられるよう、適切なサービス利用の決定やサービス提供事業者への助言・指導を行います。</p>

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	障害児の長期休暇対策						掲載ページ		
							179		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		1,162	千円	1,407	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	障害のある子ども本人の健全な育成と家族の介護負担軽減を図るため、障害のある子どもの長期休暇の過ごし方について、活動の場・各種のプログラムを提供します。			活動実績 活動実績は下記のとおりです。
活動計画	平成18年同事業の開始から5年が経過し、障害のある子どものニーズも徐々に変化してきているため、より実態に即した弾力的な運用ができるよう、実施要綱を改正するなどの工夫を行う。また、前年に好評であった合同企画を引き続き実施する。				
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】
	プログラム参加者数	380 人		295 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 大変順調
	各種プログラムに参加する児童数が増加することで、障害児の家族の負担軽減につながります。 （最終目標と最終年度）設定なし				
					順調 やや遅れ
（最終目標と最終年度）				遅れ	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	九州電力管内における節電要請を受け、一部のプログラムが実施できなかったため、全体としてプログラム参加者は、前年度に比して減少しましたが、プログラムに参加した障害児の健全な育成、その家族の負担軽減につながりました。多くの障害児が当該事業によるプログラムに参加することで、障害児の家族の介護負担を軽減し、障害児の健全な育成を図ることができるため施策の実現に有効です。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	プログラム実施の際、ボランティアを派遣する等可能な限り、経費の削減を行っており、経済的・効率的な運営を行っています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
事業目的達成に向けて、多くの障害児が当該事業のプログラムに参加できるように広報活動を積極的に行うとともに魅力あるプログラムを作成します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	北九州市障害者地域生活支援センターの運営						掲載ページ
							179
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		96,124 千円	116,120 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	障害者相談支援事業を実施する「北九州市障害者地域生活支援センター」（ウェルとばたに設置）の運営を北九州市障害者相談支援事業協会に委託して、障害者及びその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や権利擁護のための必要な援助を行うことにより、障害者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようになります。			活動実績 活動実績は下記のとおりです。
活動計画	本事業は、障害児（者）が日常生活を安心して送り、地域で暮らしていくために必要不可欠の事業です。また、相談内容が専門化・複雑化する傾向にあるため、今後は、より効率的な相談支援体制の構築を検討する必要があります。				
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】
	障害者地域生活支援センターの相談件数	12,188 件		15,294 件	大変順調
	障害児（者）が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようにするため、障害者地域生活支援センターが障害児（者）やその家族等からの相談に応じ、必要な支援を行います。 （最終目標と最終年度）平成29年度 43,669件				
	障害者地域生活支援センターの設置数	1 箇所		1 箇所	順調 やや遅れ 遅れ
障害児（者）が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようにするため、障害者地域生活支援センターが各区役所窓口との連携を強化し、身体・知的・精神の各障害に対応した適切な相談体制を整備する必要があります。 （最終目標と最終年度）					

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 HPやチラシ、福祉ガイドへの掲載などにより、継続的に障害者地域生活支援センターの広報を行なうことで、知名度を上げることができ、相談件数も前年度より増加させることができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 障害児（者）及びその家族に対する相談支援は、基本的には職員が直接行うものですが、業務の簡素化をはかるため、専門家のいる障害者相談支援事業協会に委託し、迅速な問題解決を図っています。しかし、障害者等からの相談内容が専門化・複雑化する傾向にあるため、今後は、より効率的な相談支援体制の構築を検討する必要があります。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
北九州市障害者地域生活支援センターを機能強化し、基幹相談支援センターとして再整備を行い、相談窓口の一元化を図ることで、相談者の利便性を向上させます。 併せて、出前相談など丁寧な相談支援方法をとることにより、障害のある人が自立した日常生活や社会生活を営むことができますようにします。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	機能回復訓練事業						掲載ページ		
							179		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		702	千円	806	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉センター

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	言語聴覚障害児の障害を軽減し、在宅生活を支え、自立と社会参加を促進するため、言語聴覚訓練・社会参加適応訓練・専門的な情報の提供等のコミュニケーション支援を行うとともに、重度障害児等のコミュニケーション障害に対して、機器の相談や適合等の支援を行います。				活動実績	下記活動指標の実績以外にも活動実績がある場合は、記入してください。ない場合は「活動結果は下記のとおりです。」など記入してください。
活動計画	個別訓練・集団訓練（言語発達・構音・吃音・言語療育キャンプ）の実施。 吃音に関する事業（両親教室・講演会・親子のつどい）の実施。 コミュニケーション技術支援（親子ふれあい教室）の実施。 言語聴覚障害児に対する福祉機器の適合支援の実施。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】	
	訓練内容の一層の充実を図る					大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	個別かつ多様な障害の状態に応じるためには、よりきめ細かなりハビリが行えるよう、訓練内容の一層の充実を図る必要があるため。 （最終目標と最終年度）						
						順調	順調
（最終目標と最終年度）					やや遅れ 遅れ		

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	年間延・約1,900人の児童に対し言語訓練を実施しています。また、家族や保育所・学校などからの専門相談に対応し、家庭や学校等でも行える訓練を教示するなど、効果的な支援を行っています。 個別訓練・集団訓練（言語発達 延703人 構音 延783人 吃音 延352人 言語療育キャンプ 1回：32人） 吃音に関する事業（両親教室 4回：延19人 講演会 1回：58人 親子のつどい1回：41人） コミュニケーション技術支援（親子ふれあい教室 12回：延64組） 言語聴覚障害児に対する福祉機器の適合支援
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	言語聴覚士2名体制で実施していますが、訓練件数等の多さや事故防止等の安全面の観点から、複数体制でなければ実施は困難です。また、専門職である言語聴覚士（国家資格）でなければ言語相談や訓練に対応できず、他職種職員による兼務は不可能です。当言語聴覚士は、通常業務として成人の障害者に対する言語訓練等や、更生相談所としての聴覚障害者の補装具交付判定業務における聴力検査・装用指導等を担っています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること

個別かつ多様な障害の状態に応じ、よりきめ細かなりハビリが行えるよう、訓練内容の一層の充実を図っていきます。
 個別訓練・集団訓練（言語発達・構音・吃音・言語療育キャンプ）の実施。
 吃音に関する事業（両親教室・講演会・親子のつどい）の実施。
 コミュニケーション技術支援（親子ふれあい教室）の実施。
 言語聴覚障害児に対する福祉機器の適合支援の実施。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	特別支援教育相談センターにおける相談事業						掲載ページ		
							180		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		21,462	千円	30,399	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画					【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	特別な支援が必要な幼児児童生徒や、その保護者、学校等への専門的な支援を行い、全市的な相談支援体制の充実を目指します。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動計画	巡回相談に医療関係等の専門家の同行を工夫するなど、効果的な相談を行います。（市が直接実施）								
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】		
	教育相談人数（実数）		369 人	300 人	378 人	126.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	障害の理解や学校生活等での支援について保護者や教職員と相談ができるシステムの中で、課題が解決できるよう教育相談の充実を図ります。 （最終目標と最終年度）25年 300人								
	巡回相談のべ回数		270 回	300 回	392 回	130.7 %	順調 やや遅れ 遅れ	大変順調	
学校等を訪問し、個別の教育支援計画の作成等について教職員に助言し、必要に応じて医療機関等の専門家チームと連携できるシステムの中で、巡回相談の充実を図ります。 （最終目標と最終年度）25年 300回									

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	就学相談のシステムを改善したことで増加した申込みへの対応がスムーズにできました。教育相談と巡回相談は、実施人数、実施学校数、実施時間数といずれも十分な成果があり、学校・園にとって手厚い支援となっています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	教育相談や巡回相談を申し込む保護者や学校は多く、相談件数が増加しているため、費用対効果は高いといえます。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
相談員を公募し、相談員の待遇改善を行い教育相談の充実を図ります。巡回相談に医療機関等の専門家の同行を工夫する。また必要に応じて今年度配置した臨床心理士の資格を有する専門相談員を活用することで充実を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	特別支援教育を行う場の整備						掲載ページ		
							180		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		207,628	千円	316,500	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	児童生徒の障害の状況や地域的な設置状況等を踏まえながら、特別支援教育を行う場の整備を行います。			活動実績 複数障害種を対象とする総合特別支援学校の開校に向け、建設用地を取得するとともに、整備に関する調査を実施するなど、確実に前進しています。 新設校の用地を福岡県から無償にて取得しました。 7校17台のスクールバスのうち、予定通り、2校6台を民間委託により運行しました。
活動計画	特別支援学級の設置校は25年度までに120校、通級指導教室は全区に設置することを目標としているため、22年度も状況を見ながら目標達成まで継続していきます。（市が直接実施） 新設校の建設用地を取得します。（市が直接実施） 東部地域における特別支援学校の整備に関する調査を民間委託により実施します。				
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】
	特別支援学級の設置校数	102 校	100 校	107 校 107.0 %	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 大変順調
	児童生徒の障害の状況や地域的な設置状況等を踏まえながら、特別支援学級設置校数を73校から120校に増すことを目標としています。 （最終目標と最終年度）25年度 120校				
	通級指導教室の設置区	6 区	6 区	6 区 100.0 %	順調 やや遅れ 遅れ 大変順調
児童生徒の障害の状況や地域的な設置状況等を踏まえながら、通級指導教室を全区に設置することを目標としています。 （最終目標と最終年度）					

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成22年度に特別支援学級の設置校数は、102校にであったのに対し、平成23年度は、107校に増級することができています。達成率は、100%を超えました。 建設候補地3案の中から、1番の適地である旧門司商業高校跡地を取得することができました。 また、特別支援学校の新設に向けて、有用な調査を実施することができました。 スクールバスの運行委託について、平成22年度の試行的な入札結果を踏まえ、平成23年度は2校6台の入札を計画し、予定どおり実施しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市民の特別支援学級の新設に対するニーズは高く、費用対効果が高いといえます。 土地の取得については、福岡県との粘り強い交渉の結果、無償で取得することができました。 特別支援教育に関する専門性を有する福岡教育大学に調査委託することで、有用な調査報告書を得ることができました。 市交通局に特命で委託していたスクールバスの運行について、入札を実施したことにより、競争性、効率性が図られました。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
総合特別支援学校の平成28年4月開校を目指し、平成24年度中に基本計画を策定し、引き続き平成25年度末までに基本設計・実施設計を行います。その後、平成26年から平成27年度に校舎建設を行います。 平成24年度は、22年度、23年度の入札結果を踏まえ、上記課題を検証・整理し、平成25年度以降は段階的に入札導入校を拡大します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	特別支援教育を推進する人の配置						掲載ページ		
							180		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		86,754	千円	131,735	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	障害のある幼児児童の適切な充実を図るため、特別支援教育支援員の配置や外部人材の活用を行います。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	特別支援教育を推進する人の配置に関しては、緊急度の高い状況が続くことが予測されます。特別支援学級補助（市費講師）の配置を検討するなど、引き続き人の配置を継続して行います。（市が直接実施）							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】	
	特別支援教育補助講師の配置校数（特別支援学級補助講師を含む）		48 校	33 校	63 校		大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	通常の学級及び特別支援学級等における特別支援教育の充実を目指すため、学校の実情に応じて特別支援教育補助講師を配置します。 （最終目標と最終年度）				190.9 %			
	特別支援教育介助員の配置校数		12 校	13 校	13 校		順調 やや遅れ	大変順調
通常の学級に肢体不自由の児童生徒が在籍する小・中学校に対して、特別支援教育介助員を配置し、学習面や生活面での介助を行います。 （最終目標と最終年度）		100.0 %			遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	児童生徒数がおおむね5人以上で必要な学級に対し、特別支援学級補助講師を配置することができました。また、特別支援介助員も必要に応じて、配置ができており、23年度は、13名の配置ができ、22年度より1名増の配置ができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	学校・園からの緊急度が高く費用対効果は大変高いものがあります。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
今後も、小・中学校の特別支援教育推進のため必要に応じて人の配置を行う予定です。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	特別支援教育の理解啓発						掲載ページ		
							180		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		2,849	千円	3,711	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画					【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	保護者や市民、関係機関等に、障害のある子どもたちや特別新教育について理解が深まるようにします。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動計画	今後も内容を精査し積極的に市民への理解・啓発を行います。（市が直接実施）								
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績		目標		実績（達成率）		【活動の状況】
	理解啓発資料刊行数		4 刊行		5 刊行		4 刊行		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 大変順調
	保護者向けのリーフレット「通常学級における特別支援教育」等、特に市民・保護者への理解啓発の充実に努めます。 （最終目標と最終年度）25年度 5刊行						80.0 %		
	公開講座参加人数		136 人		100 人		179 人		順調 やや遅れ 遅れ
幼稚園・保育所・小学校の教職員向けの公開講座を開催し、障害のある子どもの小学校へのスムーズな移行を目指します。 （最終目標と最終年度）毎年度100人以上						179.0 %			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	23年度は理解啓発資料を4種類刊行し、公開講座では、179人が参加しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	ニーズに対応できる発刊物を作成する必要があり、費用対効果は高いと思います。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
今後は、ホームページの充実など市民への理解啓発を積極的に行う予定です。